

報告1

夏のハルビンに全国から観光客

中国を代表する避暑地の一つ、ハルビン。今年の夏も多くの観光客を魅了しています。ちょうど第32回中国ハルビンの夏音楽会の開催の年に当たり、夜になると市内の中央大街ではいくつかが設けられたステージで演奏が始まり、通りは散策する人々でいっぱいになります。110数年の歴史を持つ中央大街は道里区にある石畳の通り。この歩行者天国は東北地方で訪れたい観光地の3番目にランキングされています。

8月15日から18日には、黒龍江省政府が中心となり「全国百強旅行社龍江行(全国百強旅行社、黒龍江への旅)」を開催、全国から主要旅行社90社、ネット旅行事業者3社が参加、“自然”と“冰雪”、避暑地としてのハルビンに理解を深めました。観光産業発展に力を入れる黒龍江省、国の統計によれば2013年観光客受入れ総数は延べ2億9200万人、前年比14.87%の増加で、観光業の総収入は全省GDPの9.64%を占めたそうです。

新潟からは直行便が週4便運航し、2時間で行くことができます。

写真は8月20日、21日撮ったものです。(近藤)



中央大街に面したマテル賓館2階バルコニーでの生演奏



通りは演奏を聞き入る人と行き交う人でいっぱい



中央大街を北に向かい、松花江河畔へ。防洪勝利記念塔がライトアップされています。



1932年に建てられた聖ソフィア大聖堂。現在は建築芸術館として公開されています。

8月19日から21日にかけて自治体国際化協会主催の日中地域間交流推進セミナーに参加した。本セミナーは年に一度中国の一都市で開催され、中国全土の日本の自治体事務所も多数参加するため、日中双方の自治体間の情報交換の場となっている。

今回のセミナーのテーマは「イノベーションの活用と環境都市の創造」であり、貴州省の省都、貴陽市で開催された。

貴州省は中国の中でもあまり裕福なイメージはない場所である。小職も初めて訪れる内陸部ということでどのような所かと思っていたが、内陸部の発展はすさまじく、この数年でビル建設が進んでいる。現在は地下鉄の工事が市内中心部で行われており、昔ながらの飲食店などは立ち退きにあい相当数がなくなっている。市内中心部のホテルに滞在したが、フロントからは近くにはあまり出歩く場所がないと言われた。

さて、このフォーラムのレセプションではたくさんの中国側の行政関係者とも言葉を交わしたが、中でも各都市の環境担当者は積極的に新潟の優れた農業技術や環境技術があればぜひ目で見て技術を学びたいという意欲に溢れていた。中国との技術交流というと日本では技術だけを盗まれ勝手に使われるというイメージがあり構えてしまう部分ではあるが、現在中国では先進技術移転のため、投資資金を募り、中国国内で事業化して技術提供者、投資家、消費者が三方よしとなるための技術移転プラットフォームも存在しており、パートナーを間違えなければ互恵関係を築くこともできると考える。

当事務所にも中国の地方都市や機関から、中国企業を新潟に連れて行き、農業等の先進技術について具体的に企業や農業関係者を訪問し商談までしたいという提案を受けることが多くなってきた。新潟と中国の双方にメリットのある経済交流が生まれるよう、まずは互いに顔を合わせるためのセッティングを数多く行っていききたいと思う。(畑)



貴陽市郊外のビル建設ラッシュの様子



第 13 回日中地域間交流推進セミナー

その他の交流など

○クロスパルにいがたにて8月6日、「最新中国事情セミナー」が開かれ、渡辺新潟県大連経済事務所長と土田第四銀行上海駐在員事務所長、当事務所の近藤所長が新潟日報社 八木秘書主管の進行のもと、約120人の参加者に今の中国の実情を紹介しました。

○新潟市給水技術交流代表団(元井悦朗水道事業管理者ほか3人)は8月18日から22日まで、友好都市のハルビンを訪問し、ハルビン市供水(給水)集団と技術交流を図るとともに浄水場や検針、料金徴収部署などを訪ねハルビンの水道事業について理解を深めました。